

## 病気があっても 病人にはならないで !!

Nさん 55歳 女性。

2年前に突然歩行困難となり、みるみるうちに3ヶ月余りで寝たきり状態になる。最初は原因がわからず、夫婦共々戸惑い、何件もの病院を渡り歩いた。

「小脳脊髄変性症」という難病をつきつけられた時は先の見えない病気に夫婦で絶望した。誰にも会いたくない。どこにも行きたくない。と、家で生活することをNさんは望んだ。介護保険の申請をし、出たのは一番重い要介護5だった。定期巡回介護を利用し、1日4回「訪問介護」にて食事、トイレ介助をお願いした。「おもらしたらどうしよう…」いつの間にか水分を控えるようになり、脱水症で緊急で入院することもあった。

構音障害もあり、うまくコミュニケーションが図れず入院するたびに嫌な思いをしていつしか口数が少なくなった。

夫は「今年の夏はいつもより暑く、このままでは脱水症をくり返してしまう」と思い『ケアホーム希望』を知り、見学・相談に来た。その時の夫の顔に笑顔はなく、介護に疲れている様子が伺えた。

ケアマネと自宅に何うと「また嘘を言って私から夫を離そうとするんでしょ」の一言は、胸に突き刺さった。Nさんとどう寄り添ったら良いのか、初めて不安を感じた。まず自分を信じてもらおう。閉ざされたNさんの心が開くまで時間のある限り、Nさん宅に行き、たくさん話をして接した。段々、何を言いたいのかわかるようになり、コミュニケーションも図れるようになった。

しかし、Nさんからはいつも同じ「トイレ…もらしたらどうしよう」という心配の言葉であった。

夫は働きながら献身的に介護をしているが、1泊の出張もある。夫が出張で夜の10時に自宅を訪問してみると室内温度は高く、汗をかき発熱している。慌てて水分補給を促すとペットボトル1本分以上の水600mlをゴクゴクと飲み干す。その直後には「もらしたらどうしよう…」の一言。

このまま不安なNさん一人を残して帰えれず、結局私はNさん宅に泊まることに。安心したNさんは朝までぐっすり眠ってくれた。

私は、看護学生時代「相手の立場に立って考える」と教わった。しかし、私自身がNさんの立場にたって関われば関わるほど戸惑った。家に引きこもり、トイレを気にして夫の帰りをじっと待っている人生など、決して幸せではないだろう…。改めてNさんに「何かやりたいことはある？」と、尋ねてみると「ハワイに行きたい…」と。

初めて前向きな答えを聞いた。私はその言葉に感動し、ここから私たちとNさんの挑戦が始まった。「元気になって必ずハワイに行こう！」を合言葉に、週2日自宅に「訪問看護」、「訪問リハビリ」

にて1日1時間毎に4回のトイレ介助、食事と飲水介助をし、脱水症、低栄養の改善を図った。週3日は『ケアホーム希望』の「通い」サービスを利用し、シャワー浴や食事、排泄介助の他に外出することで引きこもり改善にも努め、人との交流する機会も作った。夫が仕事で遅くなる時は、夜まで臨機応変に対応し、出張で家を留守にする時は「泊まり」のサービスを利用した。

Nさんの心は徐々に開いていき、職員にいつも「ありがとう」の一言を言ってくれる。「ありがとう」の一言には不思議な力がある。

人生を豊かにし、心の絆を限りなく広げてくれる。

特にNさんの「ありがとう」には、私たちにがんばろうと思わせる勇気をくれる。 **金沢 二美枝**



カンパ〜イ!



わたし達も  
この祭ハツピ  
着るの?



とうもろこし  
たくさんあるから  
食べてね〜



今日は  
みんなのお手伝い  
をしています…



ステキな  
歌声ね〜



若く明るい歌声に  
なだれは消える花も咲く〜♪



♪ 青い山脈  
雪割桜〜♪



わたしたちのぞみコーラス隊

味見という名の  
つまみ食い中…



# 夏祭り

